産業団体座談会

洞爺湖町

■―― まちづくり

――洞爺湖町の町づくりについてはどうですか。

四宮　まちづくりは基本的には、明確な政策、ひと、地域力の3つの柱が必要であると考えている。観光に対する明確なビジョン、農業・漁業も明確なビジョンがないと雇用を創出するといってもなかなか難しい面がある。地域力を生かし人材を育成し、資源の共有も行政の政策が必要である。中長期の明確な施策が必要である。

三浦　子育てしながら仕事ができるまちづくりが必要であり、母子家庭も増えていることから、保育所も夜間利用できるなど、10時までの保育があれば、飲食店も含めて町外に出て行かないのではないか。

大久保　商工会で昨年から活性化委員会として町へ提言している。まちづくりには明確なビジョンが必要である。明確なビジョンがなければ、事業が総花的となり、方向性を見失ってしまう。

特に重要な部分と考えるのは、移住に向けた住居対策で、一人でも多く入居できるような住宅の整備や固定資産税などの税控除措置、土地の斡旋など町のできることを最大限に実施することが必要。雇用の点では、西山火口に泉源を作り、地熱を利用したビニールハウス栽培によるマンゴーやトマト栽培などで雇用を創出していく。「できない」ではなく、目標に向かって進むことも必要である。

洞爺湖町独自ブランドとして亜麻の栽培を提案している。花もきれいで、実も油や化粧水などに利用でき、茎も高級繊維として活用できる。テストとしてやってはどうか。農家でも協力いただける話を数件いただいている。

洞爺湖町商工会会長

大久保 和幸 さん

今いる人への支援も重要で、婚活支援、子どものできない方への支援が必要である。遊びの心、遊びのある町、楽しい町が洞爺湖町の売りだと思っている。「遊び」による交流人口の促進を図ってはどうか。

森　まちづくりは範囲が広いが、いろいろな要素が組み合わさっていると思う。人口減少が進む中、地方創生でも取組んでいる人口減少を食い止めるには、住んでいる人が「いい町だ」と思えるようなまちづくりが必要である。

自治体の持っている力量の中で進めるしかないが、洞爺湖町には素材が多いため、その素材を産業間で連携して、しっかり見える形にしていきたい。

大久保　福祉、医療やホテル経営にも関係してきて感じることだが、福祉・医療の分野は先が見通せるため経営の計画が立てやすい。一方、ホテルや飲食業は、客の見込みが立たないため、見通しが立たない部分がある。大原に建設中の特別養護老人ホームは50床で、年間3億円の収入見込みがあり、雇用も30人見込める経済効果と雇用効果がある。産業の育成の観点では、高齢者は20～30年間は全体の数が減少しないため、福祉に力を入れることは「安心、安全のセーフティネット」の創出となり、このまちを救う施策になるだろう。

福島　洞爺湖町の魅力はどのようなものがあるのかと感じる。町の魅力が現状維持のまま動いていくのが不安である。

何かあった際の支え合いの仕組みが必要となっている。派手さはいらない、昔のような思いやりのある支え合いのまちづくりが必要である。

■―― 雇　用

――雇用についての現状と問題点はどうですか。

橋堀　労働といわれる収穫作業、定期的な作業などの管理作業、農協の選別作業の労働力確保について、パート従業員は集まらない。地元でのパートが集まらないため、室蘭、苫小牧、白老地域の人材派遣にも人材を頼っているのが現